

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年3月1日

No.14

**組合：計画の達成は組合員の努力によるものだ！
定期昇給を前提としたベアを実施せよ！**

**会社：この間の努力については認識している。
引き続き交渉を重ねていきたい。**

～2019JR総連春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日9時30分より第3回交渉を行い、今春闘における要求の根拠について主張しました。要求の根拠は以下の通りです。

- (1) 昨年度は大きな災害が相次いで発生する中で、組合員は普段とは異なる環境の中で代行輸送や迂回輸送などを担い、安全確保を大前提に安定輸送の確保を通じて収入確保を懸命に行ってきた。その組合員の努力によって収入状況は対計画100%を超える状況となり荷動きも戻りつつある。
- (2) 昨年は2年連続で鉄道事業部門の黒字を達成することが出来たが、職場の組合員にはその実感がない。職場に働く組合員と経営陣の感覚はかけ離れている。全国の職場では若年退職が後を絶たない。その理由として「人事制度に対する不安」や「賃金面への不満」などが出されていることを考えても、会社の魅力は感じられなくなっている。
- (3) 要員不足が慢性化している中で、その改善も十分に行えていない。ダイヤ改正交渉において会社は「要員を整えるのは会社の責任である」と回答しているが、まだまだその取り組み方は弱い。グループ会社の要員需給もひっ迫しており、具体的な対策が必要である。また各地に点在する老朽設備の改善も進んでいない。
- (4) 今春闘は新人事制度に移行する発射台となるものである。昨年は19年ぶりにベア300円を実施したが、組合員の今春闘に対する期待は大きい。新人事制度は「やる気・働きがいのある制度」となるように協議を行ってきた。組合員のモチベーション向上のためには今春闘におけるベースアップは必要不可欠である。
- (5) 10月から消費税が10%となり、燃料油や食料品など生活必需品の値上げが相次いで実施される中組合員の可処分所得は減少を続け、家計はますます苦しくなっている。
- (6) 改めて、災害減収を理由に賃金を抑制することは認めない。組合員は出来ることは最大限協力してきた。真面目に努力した組合員の労苦に報いるためにも定期昇給4号俸の実施とベースアップ6,000円の実施を求める。

我々の要求の根拠に対して会社は、「貨物労組の要求の根拠や春闘に臨む姿勢については会社として認識している」とし、以下のように回答しました。

- 【1】 2月の収入は速報値であるが、対計画でコンテナ+2.4億円、車扱△0.1億円で合計2.3億円のプラスとなっている。今年度の累積収入についてもコンテナ+6.5億円、車扱+1.1億円の合計7.7億円である。連結ベースで20億円の経常黒字を確保できるのではないかと考えているが、浮かれている状況ではない。
- 【2】 4月から新人事制度を導入し、賃金制度も大きく変わることになる中での春闘であり、これまでと違う部分は認識している。
- 【3】 昨年はいくまでの社員の労苦に報いるものとして些少という表現を使ったがベア300円を実施した。貴組合から今春闘における要求の根拠とその決意については認識している。そのことを踏まえたうえで会社として総合的に判断し、次回考え方を示したい。

会社の回答に対し中央本部は、

- ①貨物会社の現実を経営陣はどのように認識しているのか。要員問題をはじめ災害対応などこの間の職場の現実を直視すべきである。次期事業計画が検討されているが、収入拡大も重要であるが、職場で働く組合員の努力と苦勞に答える時である。
- ②夢と希望を持ってわが社に入社した若者が退職の道を選択している。その理由は様々だが手立てを講じなければならない。教育・技術継承はもとより安全問題にも直結する。働き甲斐ある職場にするために賃上げをはじめ職場環境改善を実施すること。
- ③鉄道事業部門は黒字を達成したが、それを担った組合員の賃金は18年連続ベアゼロである。18年前の賃金水準ということであり生活はひっ迫している。額に汗する組合員に対して経営陣は報いる責任がある。
- ④ベースアップが単年度実施となれば昨年ベアを実施した意味がない。貨物労組は連続ベア実施を求める。会社は組合員の声に耳を傾け英断すること。

と主張しました。そして本日の議論を真摯に受け止め、定期昇給の実施を含めた回答を示すことを通告し第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん！今の貨物会社があるのは私たちが職場で奮闘してきたからに他なりません。この重みを会社経営陣に受け止めさせるために、全組合員が一丸となって職場から創造した闘いをつくりだしていこうではありませんか。

本日の第3回交渉以降、闘争ゾーンに入ります。ベア獲得・諸要求の実現に向けて、それぞれの職場から切実な「声」をこれからの闘いに結集させましょう。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月8日（金）です。